

#### 【44】 漁業補償を考える

筆者が、建設省の工事事務所長をしていたもう40年も昔のことです。

管内の海岸埋立地に建設される火力発電所のすぐ脇にある流入河川のアユの漁業補償を電力会社が行いました。問題はその補償金額がバラボウで、“川の流にアユがいるのではなく、アユの流れの中に水がある”と世間から冷やかされたくらいでした。

地元はそれで満足かもしれないが、公共事業に従事する我々として大いに困るので、私も若かったこともあり、電力会社の建設事務所に面会して苦情を申し入れました。すると所長いわく、漁業補償くらいは発電所が一週間早く稼働すれば稼げる金額であり、当社としては事業が遅れる方が余程重大であると、すげない返事です。経済を知らないお役人という感じの対応をされ、追い返されてしまいました。少しカチンと来ましたが、帰所して冷静に考えると彼の言う事にも一理はあります。

役人は合法性と公正を期し、地元協議が整うまでに時間がかかることは仕方がないとしていますが、民間の企業者の目から見ると、公共事業は殿様商売なのかもしれません。しかし、この課題にはスッキリした正解は無いような気がします。